

発掘ニュース

第 25 号

平成 元年 10 月 27 日

発行 財団法人 いわき市教育文化事業団
TEL 0246 (23) 9348

まわたり いせき

馬渡遺跡

—いわき市常磐下船尾町字馬渡地内—

馬渡遺跡は、下船尾地区における土地区画整理（宅地）のために遺跡となっている丘陵、畑、水田の一部が壊されてしまうことから、遺跡の記録保存のため平成元年4月から10月末までの予定で調査がすすめられています。調査面積は約15,000㎡です。遺跡は、湯本駅から国道6号を南下すること約2km、小名浜住吉、玉川方面へ折れる信号から北へ約300mの馬渡川の左岸に位置します

約7ヶ月間の調査の結果、断続的ながら今から約7500年前から大正時代まで続く遺跡であることがわかっています。発見された遺構から、馬渡遺跡が古墳時代—奈良時代、室町時代—江戸時代に主として利用されたことがうかがえます。これらの成果について、来る11月3日（文化の日）金曜日、午前10時より現地において遺跡の一般公開をおこないます。多くの市民の皆様のご来跡をお待ちしています。なお、雨天の場合は室内（下船尾集会所）にて実施します。



1 西郷方面から見た馬渡古墳

調査の成果

発見された遺構には、縄文時代から平安時代までの^{たてあなじゆうきよし}竪穴住居跡43棟、弥生時代の^{どきかん}土器棺1基、山頂に造られた古墳1基、平安時代の^{すえき}須恵器を焼いた^{かまあと}窯跡1基、中世の屋敷跡、近代以降の^{はくたんがま}白炭窯などがあります。他に、昔のゴミ穴や炭焼穴などと考えられる^{どこう}土坑75基、溝跡26条、水溜め、井戸跡なども発見されました。また、それらの遺構に伴う遺物もぼう大な量にのびります。



2 縄文時代後期の住居（1号住）

【縄文時代】

(2) は後期の竪穴住居跡で、1棟だけが発見されました。円形に地面を掘りくぼめた家で、ほぼ中央に石で囲った四角い炉があり、壁ぎわには柱の穴がたくさん見つかりました。また別の場所からは、粘土に繊維を含む本遺跡では最も古い前期の土器がいくつか発見されました。



3 古墳時代後期の住居（29号住）

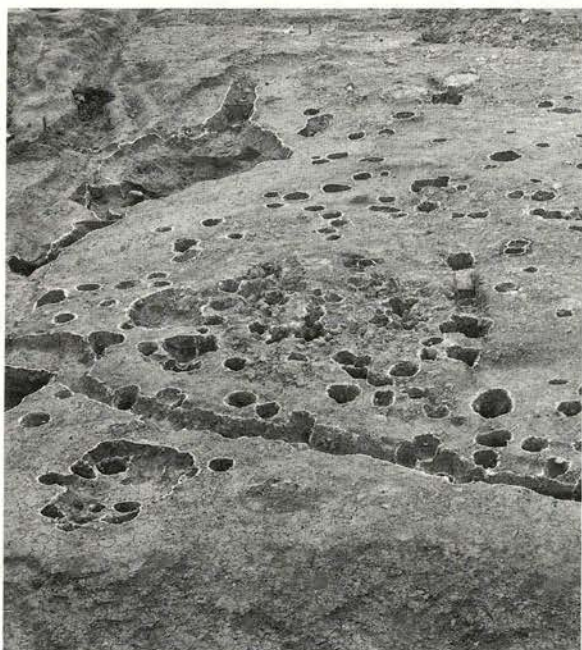
【古墳時代—平安時代】

古墳時代の遺構は、山頂を削り出した円墳と緩斜面に掘り込んだ竪穴住居跡、円筒形土坑があります。また、奈良・平安時代には住居跡の他に須恵器を焼いた窯跡1基が検出されています。(3) は古墳時代の終り頃の住居跡です。北壁に土器を置いたままのカマドがあります。

【中世—近世】

遺跡の位置する丘陵は杉や雑木の山林で、中世の^{たてあと}館跡としての地形を良く残しています。

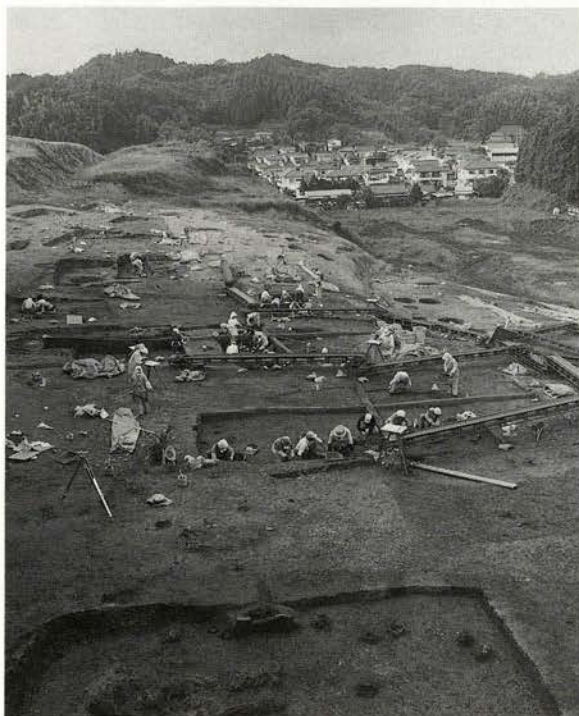
(4)は、この丘陵の裾部に見つかった無数の^{ちゅうけつ}柱穴や溝跡、井戸跡の様子です。これらの遺構に伴って、国産や中国産の陶磁器(碗・皿・甕)木製品(漆器・^{はし}箸・^{すずり}下駄)、石製品(硯・石臼・^{といし}砥石)、煙管、古銭などが出土しています。



4 中世の屋敷跡(柱穴・溝・水溜め)

発掘された馬渡ムラ

馬渡遺跡には縄文時代から近世まで約7500年間の歴史が残されています。中でも古墳時代後半から奈良時代まで連綿と続く住居跡が40軒ほど見つかかり、下船尾地区の先祖がつくった古代のムラが甦ったようです。住居跡にはカマドや屋根を支えた柱の跡があったり、食器や鍋に使った土器が当時のまま出たりします。これを記録し、研究・公開することは、古代人の文化を現代に生かすことになります。



5 今甦る馬渡ムラ

発見されたお墓



6 子供用の土器棺墓



7 山頂に築かれた豪族の墓



8 須恵器を焼いた窯

【弥生の土器棺墓】 丘陵東斜面には、土器を棺^{ひつぎ}に使った墓があります。墓は、遺体を納める土器と蓋にする土器を合わせたものを立てて埋めるのが一般的です。ここでは、斜めに傾いた状態で埋納してありました。この土器棺墓は、弥生時代の中頃に流行した墓制で、檜葉町天神原遺跡が有名です。

【古代豪族の墓】 発見された古墳は円墳で、山の尾根上に岩盤を削って築かれています。墳丘の中央には木棺^{もっかん}を直接おさめたとみられる埋葬施設（主体部）が見つかっており、古い特徴を持っています。長さ7.8 m、幅0.6 mの主体部からは、琥珀玉^{こはくだま}7点、ガラス玉^{くだたま}8点、管玉^{くだたま}1点が出土しました。

【須恵器と登り窯】 須恵器は、現代の焼物の源流です。登り窯（8）の中で、1000度以上の火により甕^{かめ}や壺^{つぼ}・瓶^{へい}・蓋^{ふた}・杯^{つき}（9）などが焼かれました。



9 住居跡から出たいろいろな須恵器